

委託事業実施内容報告書
令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(C)】

実施内容報告書

団体名：一般財団法人 ダイバーシティ研究所

1. 事業の概要

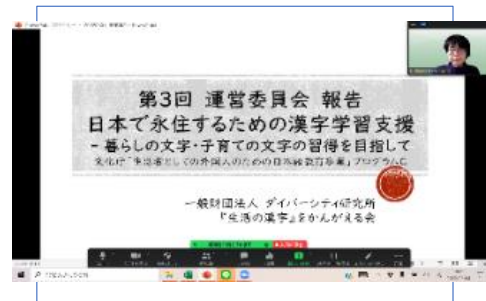
事業名称	日本で永住するための漢字学習支援－暮らしの文字・子育ての文字の習得を目指して－
日本語教育活動に関する特定のニーズの实情や課題	「生活者としての外国人」は、長年、日本で生活するうちに流暢な日常会話能力を身に付けることは少なくないが、文字、特に漢字については自然習得が望めないため、会話はできても読み書きができない非識字状態に置かれている実態が日本全国で見られる。在留外国人数が増加し、日本語学習支援の動きが各地で加速化しているものの、相変わらず日本語教室では会話中心の学習で、文字学習はあまり行われていない。最近のコロナ感染症拡大により、オンラインによる学習支援活動が地域日本語教室でも広がりを見せているものの、これもまた会話が中心で、文字学習についてはほとんどノウハウが蓄積されていない状況にある。 教材等のリソースに関しても、文字学習は周辺に置かれている。例えば、文化庁が開発した「生活者のための日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでのくらし」は、オンラインで無料で利用でき、多言語対応であるなど非常に有用であるが、同サイトで示されている「おと」「もじ」「かたち」のうち、「もじ」に関する情報やリソースは極めて少ない。 さらに、地域日本語教育の実践や運営に文字教育の専門家がほとんど携わっていないことも、文字学習が地域日本語の現場に普及しない要因であり課題である。「生活者としての外国人」に適したプログラムや指導が実施されないため、学習者は漢字が嫌いになり、漢字学習の挫折につながっている。 このような地域日本語教育の実態の一方、「生活者としての外国人」には、文字の学習や習得を強く希望する人が多数存在すること、申請者らのこれまでの教育実践から明らかになっている。彼ら/彼女らは、文字による生活情報の収集に苦勞し、文字知識がないことで家庭生活や子育てに困難を感じ、願う仕事に就くことができず、その結果、自尊心までも失っている。 即ち、これら非識字状態にある「生活者としての外国人」の実情が、まさに地域日本語教育の課題である。そして、彼ら/彼女らが求める文字学習の実現が特定のニーズであり、そのための、オンライン学習も視野に入れた教材とカリキュラムの開発、そしてそれを支える学習支援人材の養成が必須である。 なお、「子育て」という「待ったなし」のライフステージにある人たちの、育児や就学、就業にかかわる書言葉習得を望む声や、支え合うコミュニティを求める声が多く聞かれたことが、本事業の計画を後押しした。保護者の教育への参画を可能にすることが、外国ルーツの子どもの進学や就学の課題解決に直結することからも、子育て世代への文字学習支援の必要性は明らかである。
事業の目的	本事業の目的は次の3つである。 1. 「生活者としての外国人」の文字学習の促進と社会参加の促進 文字学習を中心とした教室を日本語教育の専門家が実施することで、「生活者としての外国人」が身の回りの漢字語を認識し、理解し、生活に役立てられるように、文字学習の困難を軽減し、漢字を学ぶモチベーションを高める。さらに、使用教材のスマホでの配布・閲覧、「つながるひろがる にほんごでのくらし」サイトの有効活用など、学習者が教室外でも自律的・継続的に日本語を学ぶためのサポートを行う。また元学習者である外国人スタッフを増やし、学習者の声を丁寧に拾い寄り添うサポートを行うと共に、ロールモデルとなる人材との出会いの場とする。これらによって「生活者としての外国人」の日本語学習や社会参加を促進することを目的とする。 2. 「子育て中の外国人」を対象とした漢字教育と子育て相談の場の創設(オンライン) 「子育て」というライフステージにある外国人が、育児や就学、就業に関して文字情報を取得したり、書類の記入等ができるよう「子育てのためのオンライン文字教育プログラム」を開発する。講師や補助者も、子育て中である者が担当し、子育て中の人が参加しやすい時間帯に教室を設置する。文字の学習のみならず、同じ立場の人とつながり情報交換や悩みの共有、相談ができる場の提供を目的とする。 3. 他地域への「生活の漢字」学習の普及とその学習支援人材の育成・ネットワークの構築(オンライン) 各地の地域日本語教室で活動するコーディネーターやコーディネーター的役割を担う実践者を対象として、「生活の漢字」学習の内容と方法を学ぶ講座をオンライン開催することで、広く他地域・他教室への普及を図る。地域での漢字学習支援についての相談体制を整え、文字学習支援のネットワークを構築することを目指す。
事業内容の概要(課題をどのように解決するのか、どのような点が先進的な取組になるのか分かるように記載)	本事業の全体を通しては「生活者のための文字情報のリテラシー」を特定のニーズととらえ、「漢字学習」を事業の中心に据えること、またオンラインを有効活用する点が先進的であると考えた。 1. 漢字教室「暮らしの文字」－生活者のための日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでのくらし」と関連付けた「生活の漢字教室」(対面) 文字学習の困難を軽減し、漢字を学びやすくすることで、日本で生活する外国人の社会参加を促し、日本に永住することを目指すようクラスを開催した。使用教材はスマホで閲覧できるようにし、さらに「つながるひろがる にほんごでのくらし」サイトを有効活用することで、学習者が教室外でも自律的・継続的に学習できるようサポートした。 2. 漢字教室「子育ての文字」－子育てに役立つ「生活の漢字教室」(オンライン) 地域日本語教育の専門家が、子育てに役立つ漢字(あるいは文字)教育を実施することを通して文字情報に関連する困難を軽減し、また漢字を学びやすくする学習方法を提案・実践した。教室はオンラインで実施し、子どもの送迎や世話で教室に来ることができない人や長時間の学習時間の確保が難しい人、さらに同じような立場の外国人保護者が周りにいない環境の人たちが参加できるようにした。 3. 「暮らしの文字」「子育ての文字」に関する教材作成 教材の選定や作成が難しいと言われる文字学習をサポートするため、上記1、2の それぞれの特徴にあった学習教材を作成した。実際に漢字教室での試用を行った上で、生活者として暮らしている外国人スタッフから学習者の視点からの意見を得ながら内容の検討を行い、指導者側の使いやすさだけでなく、学習者の悩みや課題に寄り添った教材、学習者が自律的に学びやすい教材にした。 4. 事業報告会(オンライン) 広く「文字学習支援」の普及及び住民の日本語教育への理解の促進を目指して、オンラインにより、各取組の成果を報告した。 5. 地域日本語教育人材の養成(オンライン講座+見学・実践) これまで養成講座を実施し、一般のボランティアが個々に活動に「生活の漢字」を取り入れ、継続することの難しさがわかってきた。そこで、今年度はボランティアを対象にした講座ではなく、地域で現場を持つコーディネーターを対象にそれぞれの現場で「漢字学習を取り入れた支援」を行ってもらうための講座を実施し、ネットワークづくりを行った。
事業の実施期間	令和3年5月～令和4年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	新矢麻紀子	大阪産業大学教授
2	内山十糸子	大阪市立総合生涯学習センター企画担当係長
3	服部圭子	近畿大学教授
4	山野上隆史	とよなか国際交流協会事務局長
5	棚田洋平	一般社団法人 部落解放・人権研究所事務局長
6	中村満寿央	一般財団法人ダイバーシティ研究所理事
7	川崎百世	関西学院大学非常勤講師
8	小野木愛	神戸国際大学非常勤講師
9	掛橋智佳子	関西学院大学非常勤講師
10	鵜飼 聖子	こどもひろば事務局長



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	令和3年6月1日(土) 10:00~11:00	1時間	ZOOM	内山十糸子、新矢麻紀子、棚田洋平、服部圭子、山野上隆史、中村満寿央、川崎百世、小野木愛、高詒祐子、掛橋智佳子	漢字教室 予定・チラシについて／評価について 教材 方針・内容
2	令和3年11月13日 (土) 10:00~11:00	1時間	ZOOM	内山十糸子、新矢麻紀子、棚田洋平、服部圭子、山野上隆史、中村満寿央、川崎百世、小野木愛、高詒祐子、掛橋智佳子	各事業の進捗報告、課題の洗い出し、次年度に向けての方針についての相談、意見交換等
3	令和4年3月1日(土) 10:00~11:00	1時間	ZOOM	内山十糸子、新矢麻紀子、棚田洋平、服部圭子、山野上隆史、中村満寿央、川崎百世、小野木愛、高詒祐子、掛橋智佳子	各コーディネーターから今年度取組の内容やアンケート結果等成果の報告、事業評価

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	大阪市立総合生涯学習センター：運営委員会への参加、漢字教室教室開催場所確保、広報・問い合わせ申し込み受付等運営管理面・学習者の相談に対する専門機関の紹介等の協力、主催のボランティア研修への講師派遣 大阪市教育委員会：教育委員会が統括する大阪市下の識字日本語教室への漢字教室・養成講座の広報協力 とよなか国際交流協会等運営委員が所属する団体や関係団体：広報協力 一般社団法人多文化社会専門職機構（地域日本語コーディネーター研修主催）：広報協力 コーディネーター研修への参加者が所属・活動する団体の要請により、養成講座への講師派遣、ニュースレターへの執筆
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	事業全体：★掛橋 漢字教室(生活の漢字)：★川崎、小野木、掛橋、高詒、御子神、齋藤 漢字教室(子育ての漢字)：★川崎、小野木、新庄、高詒 教材作成：★高詒、小野木、掛橋、川崎、新庄、高詒、御子神、齋藤 人材養成：★掛橋、御子神、新庄、齋藤 会計事務：小野木、齋藤 ★コーディネーター
----------	--

3. 各取組の報告

特定のニーズに応じた日本語教育の実施【活動の名称:永住のための生活の漢字教室】											
取組の目標		日本で生活を行っていく上で識字は社会参加に不可欠であるが、成人になってからの文字学習には困難が伴う。しかし、生活言語を基本とした基礎レベルの文字教育を行う公的な教室がないのが現状である。これらの現状を課題と捉え、日本語教育・漢字指導の専門家が適切な学習支援を行うことにより、生活で目にする漢字語を理解できること、漢字(文字)学習の困難を軽減すること、漢字学習の基礎を体系的に学ぶこと、自律的に漢字学習が継続できることを目標に漢字学習支援を行う。 在住外国人が漢字(文字)を獲得することにより、日本での生活の質が向上し、自立した個人として生活できるよう支援すること、さらには、外国人の社会参加を促し、日本に永住することを目指すよう漢字(文字)学習支援することも目標である。									
内 容		プログラムの選定・カリキュラムの検討・漢字教室の講師・補助者等を日本語教育・漢字指導の専門家が担当し、初級・中級・上級などの日本語習熟度に関わらず、生活に必要な漢字語が認識・理解できるよう以下の6項目の漢字学習支援を行った。 1. いわゆる「生活者としての外国人」は、日本語を生活の中で身に付けているケースが多い。そのような形で身につけた日本語の音声言語に文字言語を加えることによって、意味は知っていながらも文字としては認識できなかった語彙、特に漢字が読めるよう授業を行った。 2. 役所、病院、学校など社会生活において読んだり書いたりすることが必要とされる書類の内容がわかり対応できるよう授業を行った。 3. 漢字学習継続のために必要な漢字に関する知識と漢字学習のスキル(パソコン・スマホの活用を含む)を身に付けることで、自律学習・継続学習ができることを目的に授業を行った。 4. 自律的、継続的な漢字学習のために、漢字の字形や意味、漢字語の構成などの知識を学び、漢字に対する理解や興味を深めた。受講者のレベルに応じて、簡単な作文も行い、文の中で漢字を使えるように練習し、自己表現へ繋げた。 5. 学習後、実生活の同様な場面で学習した語を目にし、学習内容を役立てることで、学習漢字の定着を促し、学習意欲の向上を図った。 6. 元学習者が補助者として参加したことで、学習者同士も教え学び合えるアクティブなクラス運営を行い学習への意欲を高めることができた。元学習者にとっても学習者のよい理解者・指導者、またロールモデルとして活躍し、社会参加の場、継続した学びの場とすることができた。									
実施期間		令和3年7月27日～令和4年2月8日				授業時間・コマ数		1回2時間 × 25回 = 50時間 (「子育てのための生活の漢字教室」10時間と合わせて計60時間)			
対象者		簡単な日本語の会話ができ、ひらがな・カタカナがある程度分かり、漢字を学びたいと思っている外国人				参加者		総数 241人 (受講者 18 人、指導者・支援者等 8人)			
使用した教材・リソース		自主作成教材									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			1		1		1			4	
		イギリス(2)、オーストラリア(2)、ハンガリー(1)、イタリア(1)、メキシコ(2)、スペイン(1)、コロンビア(1)、イスラエル(1)									
日本語教育の実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和3年7月27日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第3研修室・第5研修室	11	・開講式 ・文字チェック ・インタビュー ・オリエンテーション	1. 開講式(あいさつ、自己紹介) 2. オリエンテーション(来週からの授業について、コロナ感染予防について、緊急時について、その他) 3. 文字チェック(ひらがな・かたかな・漢字) 4. インタビュー(学習環境、希望、その他)		御子神慶子	7名		
2	令和3年8月3日 (火) 9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	10	・Wi-Fi接続・googleフォルダ・Zoomの説明 ・キーボード入力 ・ベーシックストローク	1. Wi-Fi接続・googleフォルダアクセス 2. PCで入力練習(拗音、長音、促音、撥音) 3. Zoomのアクセス・使い方 4. ベーシックストローク		川崎百世	4名		
3	令和3年8月17日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	10	・ベーシックストローク	1. ベーシックストローク続き 2. かたかなと漢字 3. かたかなと漢字 書き練習		川崎百世	4名		
4	令和3年8月24日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	9	カレンダー	・行事の紹介、カレンダーの漢字 何年(西暦・元号)、何月、何日、何曜日(数字、金曜日、令和3年)・生年月日の書き方(昭和)		小野木愛	4名		
5	令和3年8月31日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	9	天気予報	・天気予報を確認する(大阪、天気、今日、明日、明後日、雨、晴れ、雨雲レーダー、降水、最高気温、最低気温、注意報、警報、時々) ・書き練習(天気、雨、晴れ雷、今日、明日、明後日、気温) ・スマホから天気予報を確認する。		小野木愛	4名		

6	令和3年9月7日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	9	災害	災害に関連する情報と漢字(台風、大雨、暴風、強風、特別警報、警報、注意報、地震、津波、避難場所) ・書き練習(台風、風、雪、避難) ハザードマップで自分の住んでいる地域をチェックする	掛橋智佳子	4名
7	令和3年9月14日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	10	住所	・地図の言葉(国、地方、市、区) ・自分・家族の名前と住所 ・利用申込書を書く(氏名、電話番号、生年月日、連絡先) ハザードマップで自宅の近くの避難所をチェックする ・書き練習(大阪府、市、区、自分の住所・名前)	掛橋智佳子	4名
8	令和3年9月21日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	12	かいもの	・花、肉、米、酒、菓(屋のまえにつく漢字) ・スーパーの売り場案内図(精肉、鮮魚、牛乳、青果、冷凍食品、惣菜) ・スーパーの掲示(砂糖、塩、小麦粉) ・安売り表示(3割引、半額びき、本日より)	御子神慶子	4名
9	令和3年9月28日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	13	たべもの	・これまでに習った漢字を使った(見た)経験の報告 ・鶏肉、牛肉、豚肉、～産、国産 ・要冷蔵、要冷凍、使用、不使用(各種添加物) ・アレルギー物質	御子神慶子	7名
10	令和3年10月5日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	10	駅	・大阪市立総合生涯学習センター周辺の駅(JR大阪駅、JR北新地駅、阪急大阪梅田駅、西梅田駅、東梅田駅、阪神大阪梅田駅) ・受講者の利用する駅と路線、環状線内回り・外回り・東口など方角・口、京阪、阪神 ・電車や駅の中の表示(優先座席・二列にお並びください、降車エリア、女性専用車両、終日禁煙、IC専用、当駅止) ・書いた言葉(駅・線)	高詒	5名
11	令和3年10月12日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	11	道	・道にある表示が分かる(歩行者用道路・歩行者用押ボタン・押ボタン式・歩行者自転車専用・自転車歩道通行可・自転車放置禁止区域・駐輪禁止など色々な禁止表示・有料・消火栓など) ・書いた言葉(道路・歩行者・自転車・禁止・有料)	高詒	5名
12	令和3年10月19日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	9	銀行①	・自分の銀行の名前 ・通帳について(口座番号・支店など) ・ATMの操作と言葉「引き出し・振込み・預入れ」 「暗証番号・取り消し・訂正・金額など」	川崎百世	5名
13	令和3年10月26日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	7	銀行②	・銀行で見る言葉を書いた(銀行・振込み・引き落とし・通帳・口座番号など) ・「つなひろ」の「銀行をりようしよう」を見た ・口座開設の申込用紙に記入	川崎百世	5名
14	令和3年11月2日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	8	病院①	病院の種類(病院、医院、クリニック、診療所)、症状からどの診療科へ行くか確認(内科、外科、整形外科、耳鼻科、皮膚科、小児科、産婦人科、歯科、眼科) 休急病診療所の紹介(診療科目、診療日、診療時間など) 書いた言葉:病院、内科、外科	小野木愛	4名
15	令和3年11月9日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	9	病院②	診察の流れに沿った、病院内の表示、必要な物を確認(受付、保険証、診察券、診察室、会計、処方せん、薬局、体温) 自動精算機の支払い方「つながるひろがる」より、レベル2「びょういんにいこう」で確認 書いた言葉:受付、保険証、診察券、会計、処方せん	小野木愛	4名

16	令和3年11月16日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	10	ごみ①	インターネットで各自が住んでいる地域のごみ収集曜日を検索する。ごみの分別の種類を知る。 書いた言葉:普通ごみ、資源ごみ、容器包装プラスチック	御子神慶子	4名
17	令和3年11月30日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	9	ごみ②	漢字を見た/使った経験を報告する。 飛び出し注意、大阪駅、点灯、消灯、耳鼻咽喉科、薬、砂糖、月末 大阪市のゴミ分別を知る。(前回の続き) 普通ごみの説明文、古紙・衣類、粗大ごみの出し方。 商業施設のごみ箱(燃えるごみ、燃えないごみ)。 書いた言葉:ごみ収集、古紙・衣類、	御子神慶子	4名
18	令和3年12月7日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	10	年賀状	お正月の言葉・筆ペンで書く(迎春)・年賀状作成 書いた言葉(寅・初春・賀正・迎春・謹賀新年・寿) 年賀状に使われる定型文の入力	高詰祐子	4名
19	令和3年12月14日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	8	薬	薬の用法・用量 薬の効果が分かる(解熱・鎮痛) 体の部位の漢字を知る(胃・腸・腰・肩・筋肉) 書いたことば(薬・毎食後/前/間・疼痛・起床・就寝・解熱・鎮痛)	高詰	4名
20	令和3年12月21日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	9	ネットショッピング	ネットショッピングの買い物の仕方 1. さがす 2. きめる 3. 買う 4. 会員登録 5. 注文内容確認 言葉: 検索、かごに追加、送料無料、会員登録	小野木愛	4名
21	令和4年1月11日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	7	書初め	書道の道具・筆使い・点画練習(とめ、はね、はらい等) 書きたい漢字を書く(福、幸せ、楽しい、夢、平和、元旦、美、家族の名前、今まで学習した漢字など)	小野木愛	4名
22	令和4年1月18日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター メディア研修室	6	料理①	調理法の言葉(揚げる、煮る、焼く、炒めるなど)、メニューの言葉(定食、日替わり、大盛、弁当など)。メニューを読む。 書いた言葉(揚げる、焼く、炒める、煮る、蒸す、丼、海鮮丼、定食、弁当、大盛り)	斎藤里佳	3名
23	令和4年1月25日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第4研修室	8	料理②	味について。(塩味、味噌味、醤油味)、辛さ(甘口、中辛、辛口)。パッケージの調理法の漢字(強火、中火、弱火、熱する、沸騰、かき混ぜる、薄切り、一口大に切るなど)。レシピを書いてみる。書いた漢字(塩、甘い、辛い、熱、混ぜる、弱火、中火、弱火、切る、一口大)	斎藤里佳	3名
24	令和4年2月1日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第5研修室	10	まとめ	これまで勉強した漢字を見ながら、ルールを示し、整理をする(パーツを見つける、部首の意味、音訓、音読みのルール、漢字語の構成など)。「カードを書く」ための言葉や漢字を示し、実際に自分メッセージを伝えたい人にカードを書いてみる	掛橋智佳子	4名
25	令和3年2月8日 (火)9:45～11:45	2	大阪市立総合生涯学習センター 第4研修室	17	修了式	修了式・アンケート・振り返り・自己評価・色紙作成など	川崎百世	4名

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第20回 令和3年12月22日】

ネットショッピングをテーマに漢字学習支援を行った。毎年生活に必要なテーマを扱っているが、コロナ等の影響でネットショッピングをする機会が日常化しているため、今年度の新しいテーマに加えた。ショッピングサイトやオンライン決済でよく目にする漢字語を学んだ後、実際のショッピングサイトにアクセスし名前や住所などを入力する練習も行った。
1人1台パソコンを使用し学んだ漢字語を実際に入力することにより、文字と音を確認し、一致させる。さらにインターネットにアクセスすることにより、個人に必要な情報収集の支援も可能なため、本取組ではパソコンを使用した漢字学習支援を2回に1回の頻度で行っている。
第20回の活動では、日本語表記のみのショッピングサイトでも、日用品・食料品などを検索し、購入する支援ができた。コース終了時に受講者を対象として実施したアンケートでは、PCを使用した授業及び、ネットショッピングの回ともに好評だった。



○取組事例②

【第21回 令和4年1月11日】

まず、筆の運び方、書き順、道具など説明をし、その後、書初めを行った。筆を使うことにより、漢字の基礎として学んだ「とめ・はらい・はね」や書き順を、分かりやすく、確認することができた。最後には各自好きな漢字を書き、書道を楽しむことができた。
書初めを授業活動に取り入れることで通常回と異なった方法で漢字学習ができ、文化体験もできた。
外国人補助者や受講者からは、とても楽しかった。受講者同士お喋りもたくさんできるので、このような活動をもっとしてほしいという感想が聞かれた。



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

本取組終了時に受講者にアンケートを実施し検証を行ったところ、以下のような回答(一部抜粋)を得た。

質問:教室に参加し、あなたの生活はどう変わったか。

回答:スーパーの買い物 became 楽になった。スーパー、銀行、駅に行けるようになった。問診票に一人で記入できた。など

質問:漢字教室に参加し、漢字や勉強の印象は変わったか。

回答:嬉しかった。もっと勉強したい。など

さらに、また漢字教室で勉強したいかという質問に対して約8割の受講者が「はい」と回答した。

漢字学習の基礎を体系的にかつ、負担を軽減して学ぶことができるよう学習支援を行ったところ、漢字に興味を持ち、楽しく継続して漢字学習に取り組めたこと、加えて本取組終了後も自律して学習を継続していくきっかけとなったことがアンケート結果により確認できた。さらに、漢字(文字)を獲得することにより、日本での生活の質が向上し、社会参加も深まった。これにより外国人が永住する上での文字に起因する困難を減らすことができたと考えられる。

(3) 今後の改善点について

・今年度までの取組を継続しつつ、社会の変化や受講者のニーズに合わせ、各回の授業テーマを見直す。受講者決定後テーマを決定するため、まだ検討中ではあるが、携帯決済やコロナ関連などをテーマとして検討していきたい。

特定のニーズに応じた日本語教育の実施日本語教育の実施②【活動の名称：子育てのための生活の漢字教室】										
取組の目標		子育てに焦点をあてた地域の日本語教室はあるが、子育てに関する文字教育を行う教室は存在しない。また識字は日本で生活を行っていく上で不可欠であるが、成人になってからの文字学習には困難が伴う。これらの現状を課題と捉え、子育て経験者であり、かつ日本語教育・漢字指導の専門家が以下の3つを目標に適切な学習支援を行う。 1. 子育てで目にする漢字語を理解できること、漢字(文字)学習の困難を軽減すること、漢字学習の基礎を体系的に学ぶこと、自律的に漢字学習が継続できることを目標に漢字学習支援を行う。 2. 出産・子育てに関する情報、学校からの案内、教育に関する情報などが理解できないことが社会参加を阻む原因とならないよう漢字学習のストラトジーを身に付け個人として自立して社会生活が送れることを目指す。 3. 孤立しがちな保護者のコミュニケーション・情報交換の場となるよう毎回、自由会話の時間を設ける。								
内 容		【授業の方法】 ・出産・子育ての場面を切り取った写真などをパソコンやスマホなどに映し出し、場面中の漢字を認識し、漢字語の意味を理解した。 ・毎回授業後には情報交換などの場を15分程度設け、受講者にとって学習の場だけでなく、子育てに必要な情報を獲得でき、日本で子育てをする外国人同士のネットワーク作りとなるような教室とした。 ・教材をスマホで見られるよう作成し授業外でも閲覧を可能にするなど、ICTを活用し様々な学習のニーズに対応できるよう工夫した。 【授業形式】 教室に出席しにくい子育て中の保護者が参加しやすいよう授業時間を1時間15分とし、オンラインでの開催とした。 【授業の内容】 ・病院、母子手帳、地域の子育てイベントや施設の利用、自治体からの案内、学校からのお便りや緊急性の高いメールでの連絡などをテーマに、出産、子育て、教育の場面で目にする漢字語を理解し、情報など得たり、文化的背景を理解できるよう授業を行った。また、学校からのお便りに、実際に返信を書くなどの活動も行った。 ・自律的、継続的な漢字学習のために、漢字の字形や意味、漢字語の構成などの知識を学び、漢字に対する理解や興味を深めた。学習後、実生活で学習した漢字語を目にすることで、学習漢字の定着を促し、学習意欲の向上を図った。 ・参加型の授業になるよう授業の構成・教材を工夫したことで、オンライン授業であっても日本語のレベル、パソコンスキルの差に関わらず、全員が「できた」と感じられるような授業を実施できた。 【その他】 ・元学習者が補助者として参加したことで、学習者同士も教え学び合えるアクティブなクラス運営が行え学習への意欲を高めることができた。元学習者が学習者のよき理解者・指導者、またロールモデルとして活躍する姿は学習者にとっても勇気づけられるものであり、社会参加の場、継続した学びのきっかけとすることができた。								
実施期間	令和3年9月7日～令和4年2月1日					授業時間・コマ数		1回1.15時間 × 8回 = 10時間 (「永住のための生活の漢字教室」10時間と合わせて計60時間)		
対象者	簡単な日本語の会話ができ、ひらがな・カタカナがある程度分かり、子育ての漢字を学びたいと思っている外国人					参加者		総数20人 (受講者15人、指導者・支援者等5人)		
使用した教材・リソース	自主作成教材									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	3			1			1		1	
	ポルトガル(1)、フランス(1)、インド(1)、アイスランド(1)、イギリス(2)、アメリカ(1)、シンガポール(1)、アフガニスタン(1)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	令和3年9月7日 (火) 10:00～11:15	1.15	Zoom	8	・じこしょうかい ・Zoomの使い方 ・ともだちをつくる (児童館などのお知らせを読む) ・googleフォルダの説明	1.自己紹介(住んでいる所・子供の年齢など) 2. 基本的な操作の確認のみ 3. 書き練習「月・日・時間」。ベーシックストロークの紹介 語彙「対象・子供の年齢の言い方・父親など」		川崎百世	3名	
2	令和3年9月14日 (火) 10:00～11:15	1.15	Zoom	7	・こどものけんこう (母子手帳・アレルギー)	1. 母子手帳についていつ使用するか。何が書いてあるか等成長の記録、予防接種の記録の語彙 2. アレルギーについて 書き練習「男、子、女、卵、乳、小麦」		小野木愛	2名	
3	令和3年9月21日 (火) 10:00～11:15	1.15	Zoom	4	・こどものびょうき (病院・症状)	1. 病院(小児科・耳鼻科・歯科) 2. 症状(熱・下痢・鼻水・おう吐・発疹・咳) 3. 問診票(氏名・生年月日・体温・薬) 書き練習「小児科・薬」		高詒祐子	2名	
4	令和3年9月28日 (火) 10:00～11:15	1.15	Zoom	4	あそびにいく(おたよりをよむ)	1遠足のおたよりを読む。2. 音訓のまとめ(日、水、子、物)3. 漢字の書き練習(水、物)、4アンケートの説明、5次回のお知らせ、6おしゃべりタイム(弁当について)		新庄あいみ	2名	

5	令和4年1月11日 (火) 10:00～11:15	1.15	Zoom	3	・自己紹介 ・Zoomの使い方 ・お便りを読む(学校の行事) ・googleフォルダの説明	1. 自己紹介(住んでいる所・子供の年齢など) 2. 基本的な操作の確認(リアクション・チャット・コメント機能) 3. ベーシックストローク(1～3) 4. お便りを読む(〇〇会・下校・最終・開始・〇〇式) 語彙「対象・子供の年齢の言い方・父親など」	高話祐子	2名
6	令和4年1月18日 (火) 10:00～11:15	1.15	Zoom	5	時間割を読む	1. 自己紹介(マシユワイさん・カゼミさん) 2. ベーシックストローク(4・5・6) 3. 時間割を読む(科目・体育中／外・持ち物・体操服・給食着など) 4. 書いた漢字「国語・外・中・持ち物」	川崎百世	2名
7	令和4年1月25日 10:00～11:15	1.15	Zoom	3	・学校からのメールを読む(緊急連絡)	1. 自己紹介(Vitaさん) 2. 基本的な操作の確認(コメント機能) 3. ベーシックストローク(7.8) 4. メールを読む(緊急連絡/下校/降園・臨時休業/休校・学級休業/閉鎖・実施・解除・再開) 書いた漢字「急」「休」	高話祐子	2名
8	令和4年2月1日 (火) 10:00～11:15	1.15	Zoom	4	学校からのお便りの返事を書く(個人懇談会)	1. 基本的な操作の確認(コメント機能) 2. ベーシックストローク(9～11) 3. おたよりの返事をかく(1～3学期、個人懇談会、懇談会、参観、案内、都合のつかない、日時、下の用紙、担任、連絡、校長/園長、提出、年、組、番、児童/園児/保護者名、記入) 4. 書いた漢字「提」「出」	小野木愛	2名

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 令和3年9月21日】

病院、病気関係は受講者から常に人気の高いテーマだが、特に子供の病気をテーマにした回である。症状別の診療科、子供が発症しやすい症状・病気、問診票の記入の仕方などを扱った。

左下の写真は受講者が、子供の歯痛の経験を共有しているところである。このように、学習者の経験談や困った経験などを話し情報交換を行うなど、受講者の関心度が非常に高い授業となった。第2回に実施した「子供の健康」のテーマで扱った漢字語に再度触れるなど、必要な漢字語は繰り返し提示できるよう工夫した。授業後の自由会話の時間には学んだ漢字語などを使い、子供の病気に関する質問や相談の場となった。講師・日本人補助者・外国人補助者含め、全員が子育て中であるため、子育てについて話す貴重な場となった。

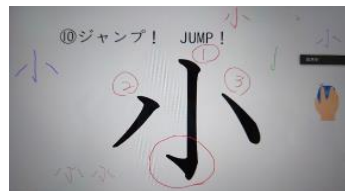


○取組事例②

【第8回 令和4年2月1日】

「学校からのお便りの返事を書く」というテーマで活動を行った。左下の写真は「提出」の「提」を書いているところである。右下の写真は漢字のストロークの基礎となる「はね」を説明し、書いているところである。毎授業では「場面とともに漢字語を提示」→「漢字語の意味を理解」→「漢字をパーツに分ける」→「講師が実際に書く」→「受講者も書く」→「必要に応じて講師・補助者がサポートする」という手順で書く活動を行っている。

オンライン授業では聞いているのみや、難しくて漢字が書けないということがないよう全員参加型の授業を目指した。講師、受講者ともに共有画面に漢字を書いたり、パソコンが苦手という学習者はノートに書き、カメラで見せたり、スタンプを使用し参加するなど全員が何らかの方法で参加することにより、受講者の「できた」という達成感を大切にし、授業を行った。下の写真では色付き手書きで受講者が書き込んでいる様子が見える。受講者は画面に書き込んだり、他の受講者が書いたものが見られるということを楽しんでいたようである。



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

毎授業後と、終了時に授業についてのアンケートを実施した。

毎授業後のアンケートでは、回答の「もっと話したい」という選択肢を選んだ学習者が数名いた。今後は授業時間を伸ばす予定であるため、授業内や情報交換の場での話す活動をさらに充実していきたい。

終了時のアンケートでは、「子育ての言葉が分かった」「漢字の読み方が分かった」「漢字の書き方が分かった」という回答が得られた。

(3) 今後の改善点について

今年度、立ち上げたばかりの取組であるため、さらにいいものになるよう検討し改善していく必要がある。

・実施期間・・・今年度は4回連続講座を2回行った(1回目:9/7～9/28毎週火曜日4回、2回目:1/11～2/1毎週火曜日4回)。4回の授業回数では漢字学習の基礎に十分な時間をかけられなかったり、振り返りの時間が十分確保できなかったため、次年度は1回の授業時間を1.5時間とし、6回連続の講座を行う予定である。

・テーマ・・・今年度の5～8回目の授業でも試みたが、来年度は全回のテーマに関連性があるようにしたい。全6回を通して一つの目標を立て、各回の授業がこの目標への道標となるようにコースを設計したい。

・ICTのさらなる活用・・・今年度も様々な工夫をしたが、ICTをさらに積極的に活用したい。忙しい子育て世代の生活時間に合わせ、欠席しても学習が継続できるよう欠席者への録画配信を行う予定である。これにより、さらに受講者のニーズにあった授業になると考えられる。

・広報・・・在住外国人の中でも、特に外国人保護者へ漢字クラスの情報が届くよう、さらに広報先を検討し、受講者の人数を増やしていきたい。

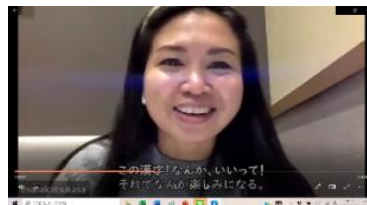
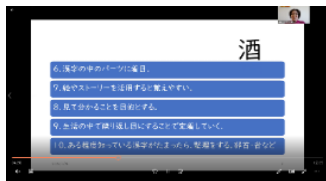
取り組みの成果の発信や普及及び住民の日本語教育への理解の促進【活動の名称:令和3年度 事業報告会】											
取組の目標		取組の成果の発信や普及及び「漢字学習支援」への理解の促進を行う									
内 容		1. 「地域における漢字学習支援の意義」 生活者としての外国人を対象とした漢字学習支援についての意義、施策、これまでの取り組みについての概要 2. 取組①②④について、今年度の事業報告 各取組のコーディネーターから今年度の事業について、取組の内容、参加者からの評価(アンケート結果)、今年度の成果と次年度以降の課題について報告。報告にあたっては、今年度の新たな試みである①オンラインでの漢字学習支援②「つながるひろがる にほんごでのくらし」と関連付けた文字学習支援 ③特定のニーズとしての「子育てに関する漢字学習支援」④コーディネーターを対象としたオンライン研修の実施についての成果についても参加者と共有した。さらに、「漢字教室」の元学習者であり、今年度補助者として参加した外国人スタッフの声として、インタビュー録画を配信した。 3. 意見交換 4つのテーマ(「生活の漢字教室」、「子育ての漢字教室」、「教材作成」、「人材育成」)でブレイクアウトルームを設定し、担当の中核メンバー・外国人スタッフが分かれて、質疑応答をはじめ、テーマに関する意見交換を行った。									
実施期間		2022年2月26日				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 1回 = 2時間			
対象者		地域における文字学習支援に関心のある人(どなたでも)				参加者		総数 142人 (受講者 142人, 指導者・支援者等 8人)			
カリキュラム案活用		作成教材はカリキュラム案同様生活場面をテーマとしており、この教材を参加者に紹介することによって、カリキュラム案に沿った活動にも活用してもらうことを意図した。									
使用した教材・リソース		自主作成教材									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
											142
活動の実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和4年2月26日(土) 14:00～16:00	2	ZOOM	142	今年度事業報告	1. 地域における文字学習支援の意義 2. 事業報告 3.意見交換会		新矢麻紀子	9名		

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

令和4年2月26日(土)14:00-16:00
 <事業報告会>地域において、文字学習支援はなぜ必要なのか。どのように実施するのか。そして、時代にあわせてどのように方法を変えていくのか。

1. 地域における文字学習支援の意義 大阪産業大学 新矢麻紀子
 2. 2021年度 事業報告
 -暮らしの文字・子育ての文字の習得を目指して-
 漢字教室の2021年度の新たな取り組み
 事業報告1: 漢字教室の実践報告
 ①「生活の漢字」教室
 ②「子育ての漢字」教室
 事業報告2: (漢字教室運営のための)コーディネーター研修
 事業報告3: 漢字教材作成
 ☆ 外国人スタッフ・学習者の声
 3. 意見交換会



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

オンラインで実施し、漢字教室の実施地域のみならず広く自治体や団体へ参加を呼びかけ、特に、文化庁をはじめ、兵庫県国際交流協会や地域日本語コーディネーターのメーリングリストでの広報により、日本全国から多くの参加者を得た。「オンラインだったから参加できた。今後もオンラインでの実施を希望」という声もあり、都市部と地方部での情報格差にオンラインの活用が有効であることが分かる。

アンケート(参加者142人 回答者83人 回収率58%)では、「漢字学習支援について理解が深まったか」という質問に対して、「大変深まった」48.8%「深まった」36.6%「少し深まった」13.4%「全く深まらなかった」0%となっている。感想・意見の記載欄には多くの熱心なコメントが寄せられたが、文字学習支援について①意義と重要性が確認できた ②方法について詳細を知ることができた ③今後の取組の後押しになった ④今後もこのような会に参加したい という趣旨のコメントが多く見られた。さらに、今後も文字学習支援についての情報を希望するとして、メールを登録した人は60人にのぼる。これらことから、漢字学習支援への理解と実施促進という目標が達成できたと考える。

(3) 今後の改善点について

今回、参加人数に上限を設けず募集を行ったため、想定以上の人数のご参加があった。このことから、以下の2つが問題点としてあげられる。

①参加者の把握 申し込みは180人を超えていたが、実際の参加者は142人であった(欠席者38人中キャンセルの連絡10人)。出席を取らず、入退出を自由にしたため、アンケートの回答がない人は誰が出席したのかが把握できていない。

②意見交換会ではテーマごとにブレイクアウトルームに分け、出入りするように設定したが、30人以上集まった部屋もあった。質疑応答はできたが、参加者同士での意見交換が十分にできたとは考えにくい。

今後は、参加人数についてどのように設定するのか、人数が多いときはどのように参加者の把握をするのかを検討したい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:コーディネーターのための「地域における文字学習支援」研修】										
実施期間	令和3年8月28日～令和3年11月13日					授業時間・コマ数	1回 2時間 × 5回 = 10時間 ※別途 授業見学(2時間・自由参加)			
対象者	地域でコーディネーターの役割を担っている人、またはこれから担おうとしている人					参加者	総数 105人 (受講者 27人、指導者・支援者等 8人)			
カリキュラム案活用	作成教材はカリキュラム案同様生活場面をテーマとしており、この教材を参加者に紹介することによって、カリキュラム案に沿った活動にも活用してもらうことを意図した。									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										27
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	令和3年8月28日(土) 14:00～16:00	2	ZOOM	23	移民に対するリテラシー教育の意義	・オリエンテーション ・日本における外国人と日本語教育の変遷 地域日本語教育の変遷と展開 「生活者としての外国人」の日本語能力と社会参加 他	新矢麻紀子	3名		
2	令和3年9月11日(土) 14:00～16:00	2	ZOOM	22	「生活の漢字」について実践のポイント	・「生活の漢字」とは何か、「生活の漢字」学習支援の方法について理解する。 ・自分たちの活動に「生活の漢字」学習支援を取り入れることを考えたとき、自分は何ができるのかを考える。 ★「生活の漢字」教室の紹介	新庄あいみ	3名		
3	令和3年9月25日(土) 14:00～16:00	2	ZOOM	24	地域における「文字学習支援」の現状と課題～コーディネーターの立場から一緒に考える	・「ことば」「生活者としての日本語」支援・「交流型」の地域日本語活動の在り方を確認し、今後文字学習について考える機会を持つ ・各々の現場における「生活の漢字」学習支援の現状・課題・将来やってみたいことについて、コーディネーターの立場から一緒に考える ・コーディネーターとして行っていることの情報交換や悩みの共有をし、「横のネットワークづくり」をし、次の一歩を踏み出す機会とする	服部圭子	3名		
	令和3年9月28日(火)～ 令和3年10月	2	大阪市立総合生涯学習センター/ZOOM	12	授業見学	「生活の漢字教室」の見学(※希望者のみ) 教室訪問・動画配信視聴のいずれか		1名		
4	令和3年11月6日(土) 14:00～16:00	2	ZOOM	11	実践報告・今後の課題について	10月の課題:各地域で今後どのように「文字学習支援」に取り組めるのか、そのための課題は何かを話し合ってくる →グループに分かれて報告・課題について検討、発表	御子神慶子、掛橋智佳子	3名		
5	令和3年11月13日(土) 14:00～16:00	2	ZOOM	13	教室づくりに求められるもの～「識字」という観点から	・識字の問題とは？ ・国・自治体における移民施策や識字施策の必要性 ・地域における面としての取組の推進＝ネットワークの必要性 ・「識字」という観点からみた 地域日本語教室の役割(グループで考える)	棚田洋平	3名		

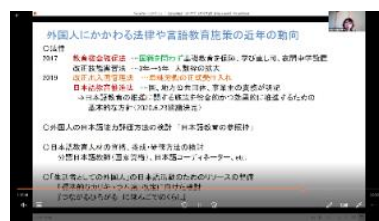
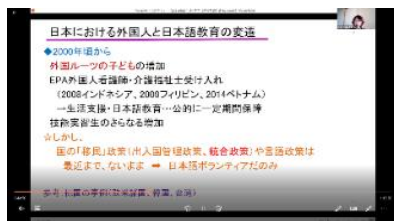
(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 令和3年8月28日】

まずはオリエンテーションとして、この研修の目的について説明・参加者同士が互いに知り合った後、地域における文字学習支援の現状について、クイズ形式で考えた。

次に日本における外国人と日本語教育の変遷、地域日本語教育の変遷と展開、地域日本語活動の実態、「生活者としての外国人」の日本語能力と社会参加について学んだ。リテラシー(識字)について基礎知識を得、具体的なケースについて考えることで、「文字を持たないことの背景にあるもの」「それによって何がもたらされ、奪われるのか」が問いかけられた。また文字、読み書きをめぐる外国人の「声」が紹介され、「生活の漢字」の取り組みについても紹介された。さらに、コーディネーターとして知っておく方がよい、日本語教育施策と地域の日本語教育への影響が紹介された。



○取組事例②

【第2回 令和3年9月11日】

学習者を取り巻く状況に触れながら、漢字を「楽」しく、「楽」に学習するための10のポイントについて、考え方から支援の方法までを具体的に学んだ。その上で、今後にかすために、グループで「生活の漢字」とはどのような漢字なのか、またそれぞれが行っている漢字学習支援と「生活の漢字」が学習支援との相違点や共通点などを話し合い発表した。



(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

オンラインで実施したことで、全国(関東～四国まで)これまでなかなかつながることのできなかった地域ともつながることができた。参加者アンケートにおいて、各回の参加した感想についての質問に対する結果は、右のグラフの通りである。概ね高い評価を得ていて、毎回非常に多くの質問やコメントが寄せられたが、以下の例のように、漢字学習支援の取り組みについての意義や課題に対する理解と多角的な視点の獲得、新たなつながりについてのコメントが多い。

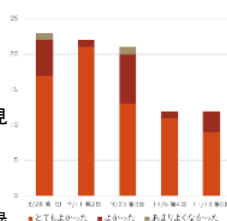
例)・漢字学習や「書く」ことに対する課題を整理することができました。

・文字支援の意義、重要性を教えてくださいました。学習者の背景も考え、これからも関わっていければと思いました。

・悩んでいることには共通点があるが、課題を解決しようという熱意も同じものを感じた。

・立場や教える場が違っても目指す方向・大切にしていることは同じなんだと気づきました。様々な立場の方からの意見を参考にしながら今後の活動に生かしていこうと思います。

本研修では第3回と第4回の間に1か月の実践期間を設け、「自分の地域で文字学習支援についてどのように取り組めるのか、またそのための課題は何かを仲間と話し合ってくる」という課題を課し、後半は実践について話し合う内容となったため、第4回・第5回は、現場で実際に活動をしている人が中心となった。参加者人数は半減したが、内容的には充実した話し合いが行われた。また修了時に今後もつながりを持つためにメーリングリストを作成したところ12人の登録があった。さらに、受講生の紹介で養成講座の講師、ニュースレターの執筆依頼があった。これらのことから、今回の目標であった「文字学習支援についての理解の促進」「ネットワークを作る」という目標に対して、成果があったと考えられる。

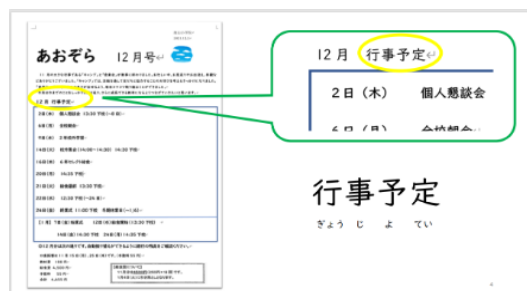


(3) 今後の改善点について

これまで地域で出向いてボランティアの研修を中心に実施してきたが、その場では十分に学んでも、継続的な活動に結び付けられていないことが多いことがわかった。そこで今年度は、地域でコーディネーターとして活動している人を対象にした研修とし、漢字学習支援の意義を深く考え、各地域でどのように実施していくのかを共に考える研修とした。しかし実際はコーディネーターだけでなく、地域における文字学習支援に対するニーズと課題を感じているボランティア、日本語教師と様々な立場からの参加があった。このことは結果的には、参加者アンケートの「様々な立場・視点で考えられた」、「地域・立場を超えて、同じ課題に向き合う仲間と出会えた」という声につながったと考えられるが、一方で後半の実際の現場においての実践を踏まえた回では参加者人数が半数となった。

オンラインでの実施は、広い地域からの参加が可能であり、参加者も時間的・経費的に節約ができるという利点は大きいですが、研修前後、休憩時間での雑談や名刺交換、挨拶などの余白が取りにくく、参加者個別の同士のつながりがつくりにくいのが難点である。これらのことを今後の課題として検討したい。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：生活の場面から文字を学ぶためのスマホ教材】			
取組の目標	日本語学習者が支援者とともに、または自律的に下記のような日本語学習を進めるために、有効な日本語学習教材を提供する ①生活に必要な情報を文字から得られるようになる。 ②漢字に関する知識、日本語に関する知識、日本の生活に関する知識を増やす。 ③漢字学習に興味を持ち、継続的に自律的に学ぶことができるようになる。		
内 容	●取組1・2「漢字教室」の日本語指導者が、下記①②の漢字教材を作成、実際に教室で試用し、さらに日本語指導者と補助者(外国人スタッフおよび地域日本語教育実践者)を交えて検討・改善を行った。 ①生活場面を取り上げた文化庁『「生活者としての外国人」のための日本語学習サイト「つながるひろがる にほんごでのくらし」(以下:「つながるひろがる」)の生活行動に関連付けた暮らしに必要な漢字語を学習するための教材を作成した。教材の構成はスマホ教材の最終ページに「つながるひろがる」の関連ページのリンクを貼り、漢字語を知った学習者が「つながるひろがる」で生活場面会話を見るという流れの学習教材とした。 ②子育てに関わる場面に関わる文字学習のための教材を作成した。 <特徴> 1. 日本語の文字の書き方の基本(ベーシックストローク)が学べる。また漢字は書き方や情報の掲載されているWEBサイトにリンクをはることで、学習者が自律的に発展的に学べる。 2. 暮らしの一場面として提示した動画や写真から学習者自身が必要な漢字を見つけ、そこから文字の形や意味を認識し理解できる 3. 漢字の字形の認識、音のパーツ、意味のパーツ(部首)、漢字語の構成など、体系化を行った。 4. 自分の名前や家族の名前、住所等、学習者が個別に必要な情報を教材とした。 5. お便り・処方箋などでは、受講者にとって必要な情報を得るためのコツや漢字を示した。 6. 教材はスマホでの閲覧を想定し作成した。 7. 外国人スタッフの意見を取り入れ、漢字教室の教材には学習者が理解確認や復習ができる頁を追加した。 ●教材作成会議は①②各2回実施した。		
実施期間	令和3年6月1日～令和4年3月10日	作成教材の 想定授業時間	1回3時間 × 29回 = 297時間
対象者	・日本語学習者 ・地域日本語支援者	教材の頁数	861ページ
カリキュラム活用	・標準カリキュラムに基づき教材内容を検討し、当該場面・行為において必要となる漢字語を教材に組み込んだ。		
事業終了後の教材活用	・今期学習者や学習者の属するコミュニティ等による自律的学習教材としての使用 ・「事業報告会(取組4)」参加者を中心とした地域日本語教室での使用 ・「つながるひろがるにほんごでのくらし」を使った日本語学習の際の漢字学習教材としての使用		
成果物のリンク先	文化庁NEWS(日本語教育コンテンツ共有システム)		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

本事業の目的は次の3つである。

1. 「生活者としての外国人」の文字学習の促進と社会参加の促進

文字学習を中心とした教室を日本語教育の専門家が実施することで、「生活者としての外国人」が身の回りの漢字語を認識し、理解し、生活に役立てられるように、文字学習の困難を軽減し、漢字を学ぶモチベーションを高める。さらに、使用教材のスマホでの配布・閲覧、「つながるひろがる」にほんごでのくらしサイトの有効活用など、学習者が教室外でも自律的・継続的に日本語を学ぶためのサポートを行う。また元学習者である外国人スタッフを増やし、学習者の声を丁寧に拾い寄り添うサポートを行うと共に、ロールモデルとなる人材との出会いの場とする。これらによって「生活者としての外国人」の日本語学習や社会参加を促進することを目的とする。

2. 「子育て中の外国人」を対象とした漢字教育と子育て相談の場の創設(オンライン)

「子育て」というライフステージにある外国人が、育児や就学、就業に関して文字情報を取得したり、書類の記入等ができるよう「子育てのためのオンライン文字教育プログラム」を開発する。講師や補助者も、子育て中である者が担当し、子育て中の人が参加しやすい時間帯に教室を設置する。文字の学習のみならず、同じ立場の人とつながり情報交換や悩みの共有、相談ができる場の提供を目的とする。

3. 他地域への「生活の漢字」学習の普及とその学習支援人材の育成・ネットワークの構築(オンライン)

各地の地域日本語教室で活動するコーディネーターやコーディネーター的役割を担う実践者を対象として、「生活の漢字」学習の内容と方法を学ぶ講座をオンライン開催することで、広く他地域・他教室への普及を図る。地域での漢字学習支援についての相談体制を整え、文字学習支援のネットワークを構築することを目指す。

(2) 目標の達成状況・成果(取組による特定のニーズの充足)

本事業においては、非識字状態にある「生活者としての外国人」の実情が、まさに地域日本語教育の課題ととらえている。そして、彼ら/彼女らが求める文字学習の実現が特定のニーズであり、そのための、オンライン学習も視野に入れた教材とカリキュラムの開発、そしてそれを支える学習支援人材の養成が必須であるとして、事業を実施した。

1. 「生活者としての外国人」の漢字(文字)学習の促進と社会参加の促進

終了時に受講者を対象に実施したアンケートから以下の成果が確認できた。

・「楽しかった・とてもよかった」というコメントが多く見られたことから、漢字(文字)学習支援を通して、漢字に興味を持ち、楽しく、学べたことが確認できた。

・「スーパーや銀行に行けた、病院で問診票も記入できた」というコメントから、受講者の生活の質が向上し、自分らしく自立した生活が送れるよう支援できたと考えられる。

・約8割の受講者から、「また漢字教室に参加したい」という回答があった。また、「もっと勉強したい、自分でも勉強したい」との回答があったことから、漢字学習を継続すること、本取組終了後も自律的に学習が行えるよう支援できたと考えられる。

2. 「子育て中の外国人」を対象とした漢字教育と子育て相談の場の創設(オンライン)

受講者のから情報、毎授業後と終了時に実施したアンケート、及び他の取組の受講者のアンケート等から、以下の成果が確認できた。

・オンラインで開催したことにより、日本の様々な地域から、多様な国籍の受講者が参加できた。

・「楽しかった」等のコメントから、漢字学習の負担を軽減し、楽しく学んでいくきっかけとなったと考えられる。

・受講者全員が画面に書き込んだり、実際にノートに書いた漢字をカメラで共有しながら授業を行えたことから、日本語のレベル、PCスキルに関係なく、参加型の授業を実施できた。オンライン授業の方法は今後も引き続き検討し改善していく必要があるが、一定の成果が得られた。

・コーディネーター研修や授業報告会の受講者から、本取組への質問やコメントが多数寄せられたことから、他地域でもニーズがあることが分かった。今後、子育てに関する日本語学習支援のネットワークづくりや情報交換などへと繋ぎたい。

3. 他地域への「生活の漢字」学習の普及とその学習支援人材の育成・ネットワークの構築(オンライン)

オンラインで実施した「コーディネーターのための地域における『漢字学習支援』研修」「事業報告会」はどちらも定員以上の参加があり、上記に示したように参加者からも高い評価を得ている。参加者アンケートのコメントからは「生活の漢字」学習の意義とその実施方法についての理解が深まったことや、今後の各地域での実施について意欲が高まったことが書かれている。さらに、今後の情報提供の希望者(コーディネーター研修12人、事業報告会60人)のメール登録があった。これらのつながりを今後各地で「文字学習支援」を実施する際に活かしていきたい。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果等

大阪市立総合生涯学習センターと運営面で連携し、受講生の募集、教室の確保等、幅広い面で協力を得た。漢字教室の終了後は、担当者と会談し、継続的な実施についての相談を行った。

また大阪市教育委員会においては、随時連絡をとり漢字学習支援の継続開催・必要性について理解を求めたが、発展は見られなかった。

今年度については、オンラインでのコーディネーター研修・事業報告会を実施することで、地域を広げ、日本全国の地域の日本語教育に関係する人々を対象に文字学習支援についての理解の促進を積極的に実施した。このことで、養成講座への講師派遣、ニュースレターの執筆依頼につながった。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

＜広報＞各事業のチラシを大阪市内の識字・日本語教室と近隣の市の国際交流センターに郵送した。また、当事業運営メンバー各自の関係先でも配布した。

ダイバーシティ研究所・大阪市立総合生涯学習センターのホームページにおいて広報した。

全国を対象とした取組(コーディネーター研修・事業報告会)については、文化庁をはじめ、兵庫県国際交流協会、地域日本語教育コーディネーターのメールリストで情報を流してもらうことで、広く事業実施の周知がかなった。

＜見学者の受け入れ＞コーディネーター研修では本事業での実践を参考にしてもらうため、受講生を対象に実地での見学者を受け入れ、録画の配信を実施した。大阪市立総合生涯学習センターのインターン(大学生・2人)が漢字教室に参加し、在住外国人への支援について学ぶ機会となった。

＜事業報告会＞今年度の最後の事業として、事業報告会を実施した。参加者に文字学習支援についての意義について伝えたと、今年度の事業の詳細な報告を実施した。報告会では、外国人スタッフのインタビュー(録画)で「元学習者として」「スタッフとして」の生の声も伝えた。さらに各テーマ(対面の漢字教室、オンライン・子育ての漢字教室・教材作成・人材養成)ごとに中核メンバー・外国人スタッフがブレイクアウトルームに分かれ、参加者と漢字学習支援について意見交換を行った。

(5) 改善点、今後の課題について

1. 「生活者としての外国人」の文字学習の促進と社会参加の促進 アンケート結果からも多くの学習者が次年度以降も同様の教室への参加を希望しているが、単年度の委託事業であるため常時教室が設置できないことが課題である。学習者のニーズに応えるためにも教室の持続的な開催が必要であることについては、これまで大阪市教育委員会と協議を重ねてきたが未だ見込みが立っていない。来年度は、継続的に実施できるような形態の必要性和可能性について大阪市教育委員会だけでなく、各方面との協議を重ね、再来年への実施を目指したいと考えている。 2. 「子育て中の外国人」を対象とした漢字教育と子育て相談の場の創設(オンライン) 参加者から授業内容について高い評価があり、また他の団体・グループからも「子育て」というテーマの設定や、オンラインという方法に対しても関心が寄せられたことからニーズは高いことが分かったため、1.と同様に事業の継続実施が大きな課題である。 改善点としては、参加人数のばらつきが大きかった(3～8人)ことがあげられる。上記の漢字教室と同じ日時で実施したため、対面の漢字教室の参加者の中にも「子育ての漢字教室にも参加したかったが、できなかった。」という人もいた。運営委員会では、夜間の実施によって保護者の参加率が上がった例も紹介された。これらのことから、実施時期・日時等について検討が必要であると考えられる。また今年度からの新たな取り組みであったため、対象となる外国人保護者へ情報への周知も試行錯誤であった。今後は、さらに広報や授業におけるSNSの有効利用や、基本的な部分を動画で復習できるようにするオンライン教材作成など、時代とニーズに合わせた発展的な展開も考えていきたい。 3. 他地域への「生活の漢字」学習の普及とその学習支援人材の育成・ネットワークの構築(オンライン) 今年度のコーディネーター研修は、オンラインで実施し、日本各地でコーディネーターやコーディネーターとして活動したい人たちが「文字学習支援」について、基本的な知識を学ぶだけではなく、それぞれの地域での取り組みについて、参加者同士でも深く考え、意見を出し合う形とした。今後は、そのつながりを活かしていきたい。具体的には、来年度は文字学習支援専門家が各地域に出向き、その地域で持続的に実践しやすい形をコーディネーターやボランティアとともに一緒に考えたり、「漢字教室」のモデル授業を行ったりすることで、実践のサポートを具体的に実施していくことを考えている。また上記にも示したように、情報提供の希望者(コーディネーター研修12人、事業報告会60人)のメール登録の有効活用についても課題である。 事業全体としては人材の確保が課題である。今年度は「漢字教室」に例年参加していた元学習者であるタイ母語話者の補助者が参加を辞退したため、代わってインドネシア語母語話者2人(1人は英語も可)が補助者として参加した。インドネシア語を母語話者の参加はなかったが、これまでと同様に、学習者・日本人スタッフへの細やかなサポートを行ったことで、スムーズな教室運営が可能となった。漢字教室において母語話者の補助があれば、日本語レベルに関わらず広い範囲の学習者が参加しやすいことがこれまでの取り組みでわかっていたが、今年度は、さらに外国人スタッフの存在は、言語の問題だけではなく、同じ外国人住民、日本語学習者としてとして、また学習者の一歩先を行く先輩として大きな役割を果たしていることが分かった。これまで漢字教室で学習したことを活かして、学習を補助する側として働くことで、外国人スタッフ自身も「もっとうまくなりたい、学びたい」という学習への意欲の高まりも見られた。今後も外国人スタッフを増やしていきたいと考える。 また、オンラインでの実施を契機に、広域からのサポートの依頼が少しずつ増えてきている。地域での「文字学習支援」の先駆けの事業として、ともに活動を支える人材の育成が必要である。事業全体としても活動メンバーの拡充を検討したい。
--

(7) その他参考資料

- 「永住のための生活の漢字教室」 チラシ
- 「子育てのための生活の漢字教室」 チラシ ①②
- 「事業報告会」チラシ
- 「コーディネーターのための「地域における文字学習支援」研修 チラシ